

# 日本歯科医師会会員アンケート調査

「地域包括ケアシステムにおける  
かかりつけの歯科医師が果たす役割と  
今後の働き方等」に関する調査

【速報版】

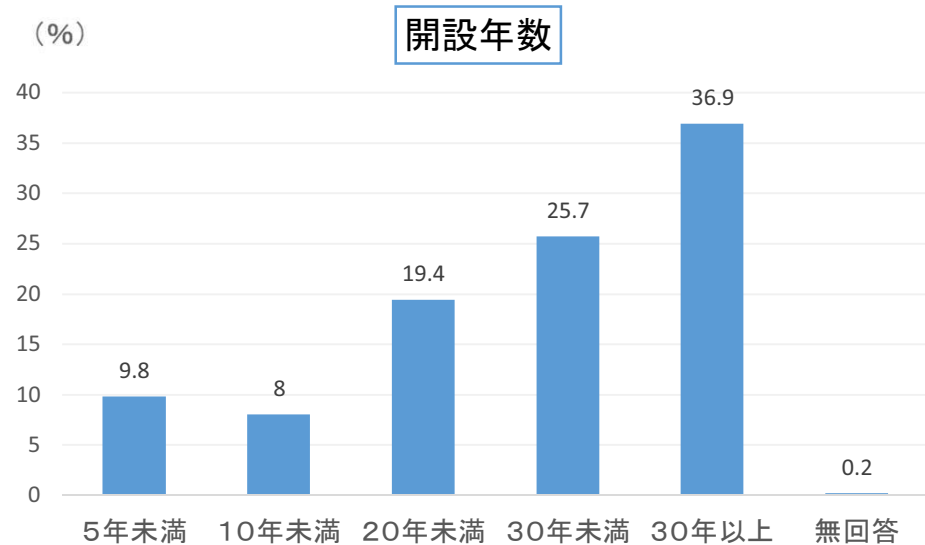
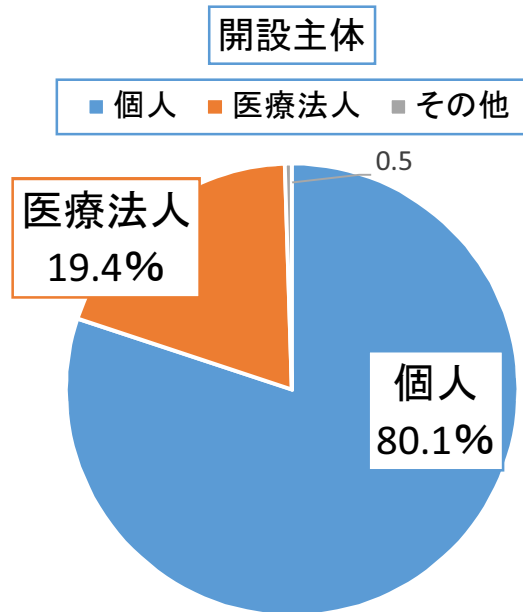
令和元年11月13日  
公益社団法人 日本歯科医師会

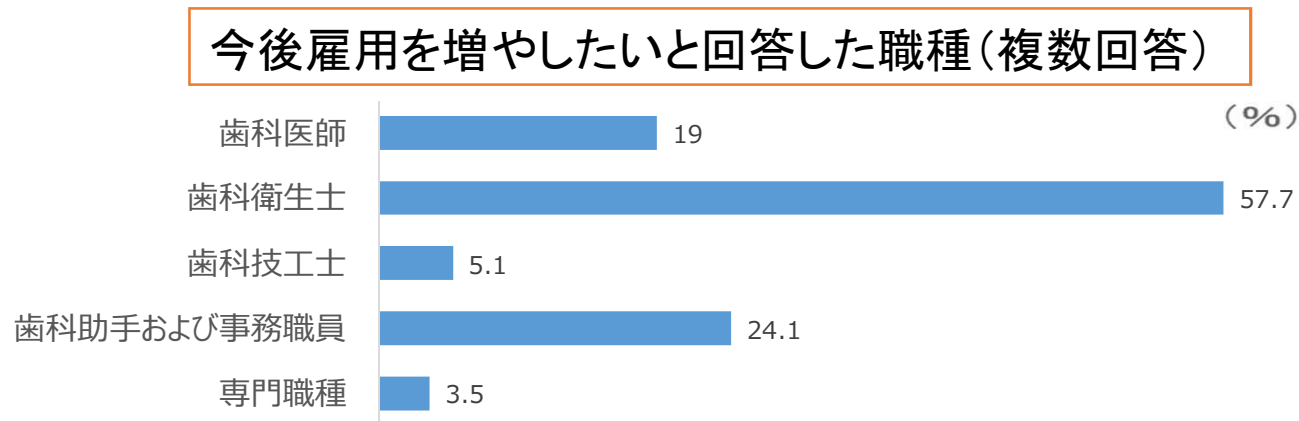
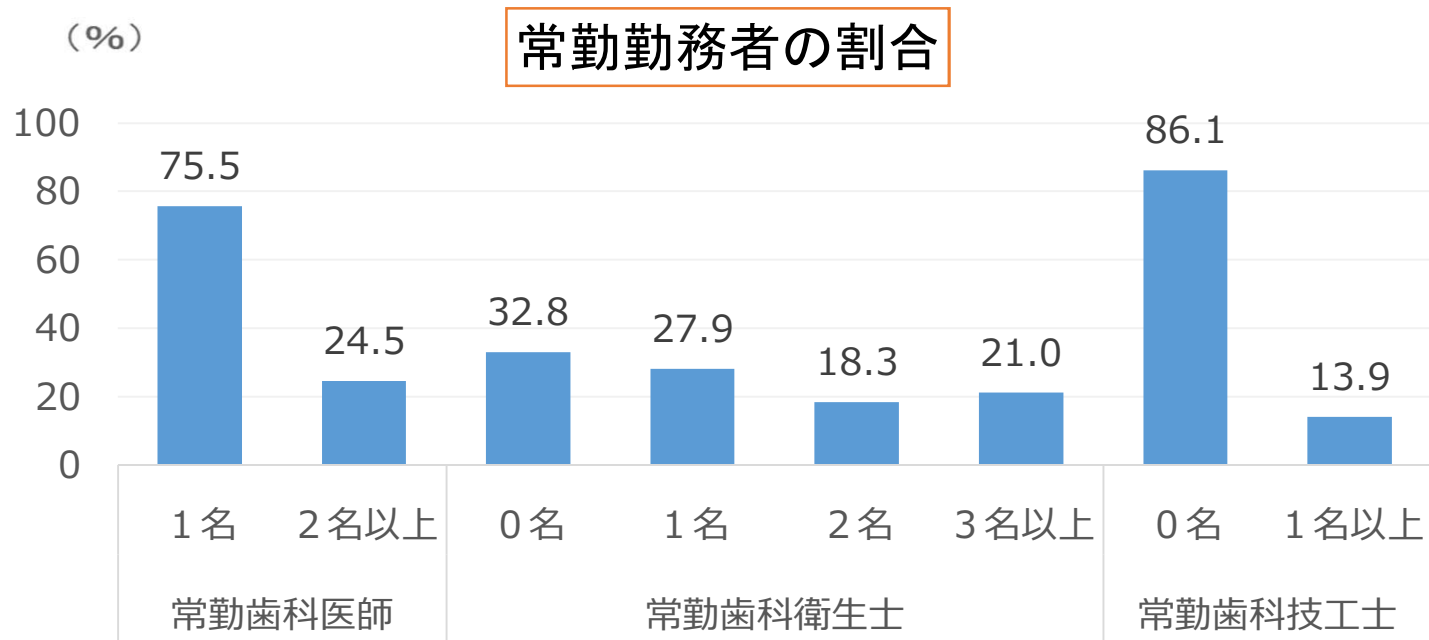
## 【調査結果の概要】

- ・かかりつけ歯科医師の役割としてう蝕・歯周病等の重症化予防や継続的な歯科医療提供および患者等への分かりやすい説明が重要と考えている回答割合が最も高かった。
- ・常勤歯科医師が1人および常勤歯科衛生士0名の歯科診療所割合が最も多く、今後雇用したい職種は歯科衛生士との回答が多かった。
- ・在宅歯科医療を実施する歯科診療所割合は47%と高く、歯援診等施設基準は届け出せず実施している歯科診療所も多いことが分かった。在宅を実施できない理由としてはマンパワー不足との回答が最も多い。
- ・地域保健活動等の実施割合は高く、今後取り入れたいまたは拡大したい診療内容として、口腔機能低下への取り組みとの回答割合が最も高かった。

方法： 郵送調査  
対象： 日本歯科医師会会員 11,383名  
(令和元年9月末時点での被災地を除く)

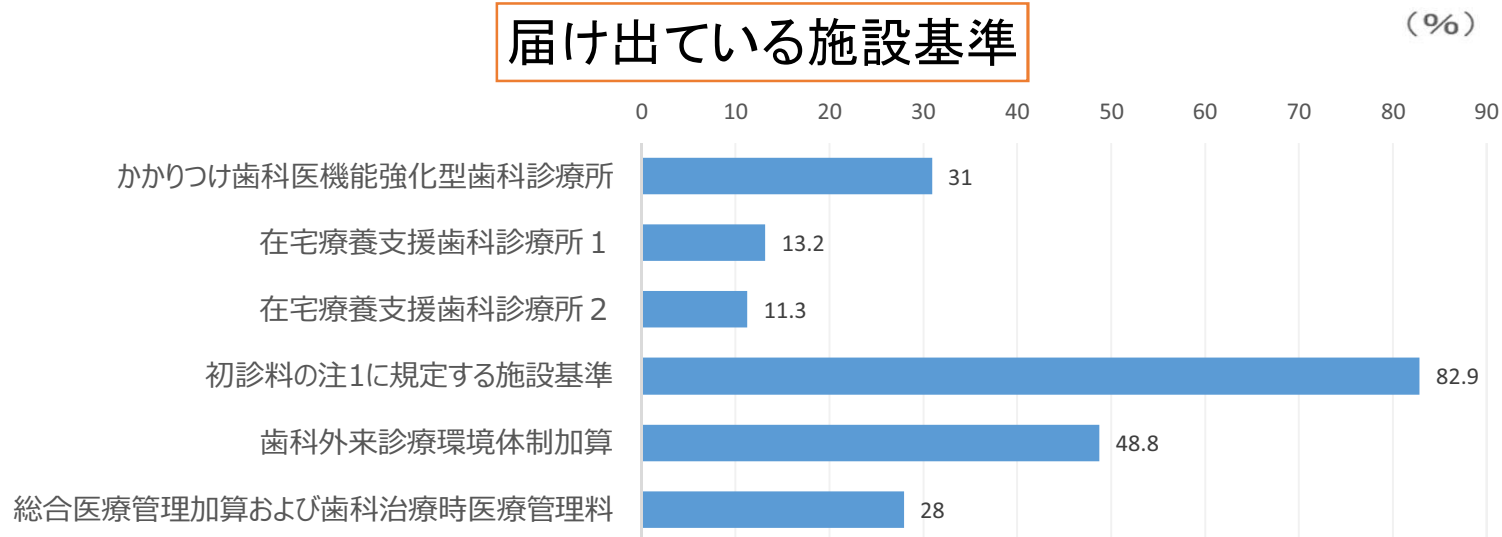
有効回答率: 44.9%  
令和元年10月28日時点  
有効回答数 5,116件



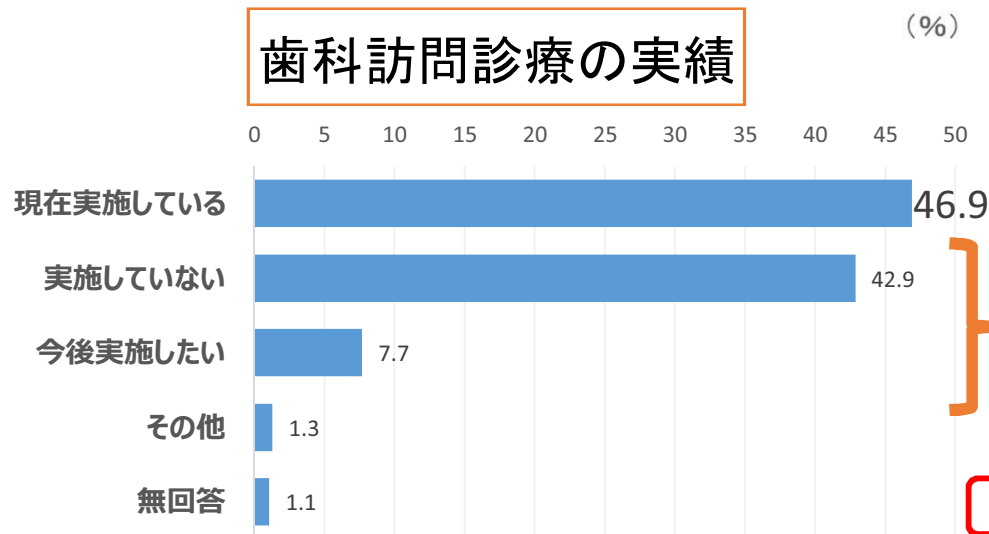


常勤歯科医師が1人および常勤歯科衛生士0名の歯科診療所割合が最も多い。  
今後雇用したい職種割合は歯科衛生士が最も高い。

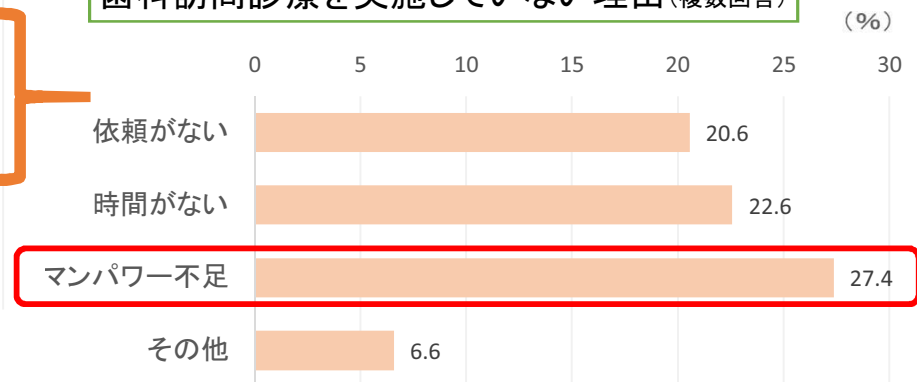
## 届け出ている施設基準



## 歯科訪問診療の実績



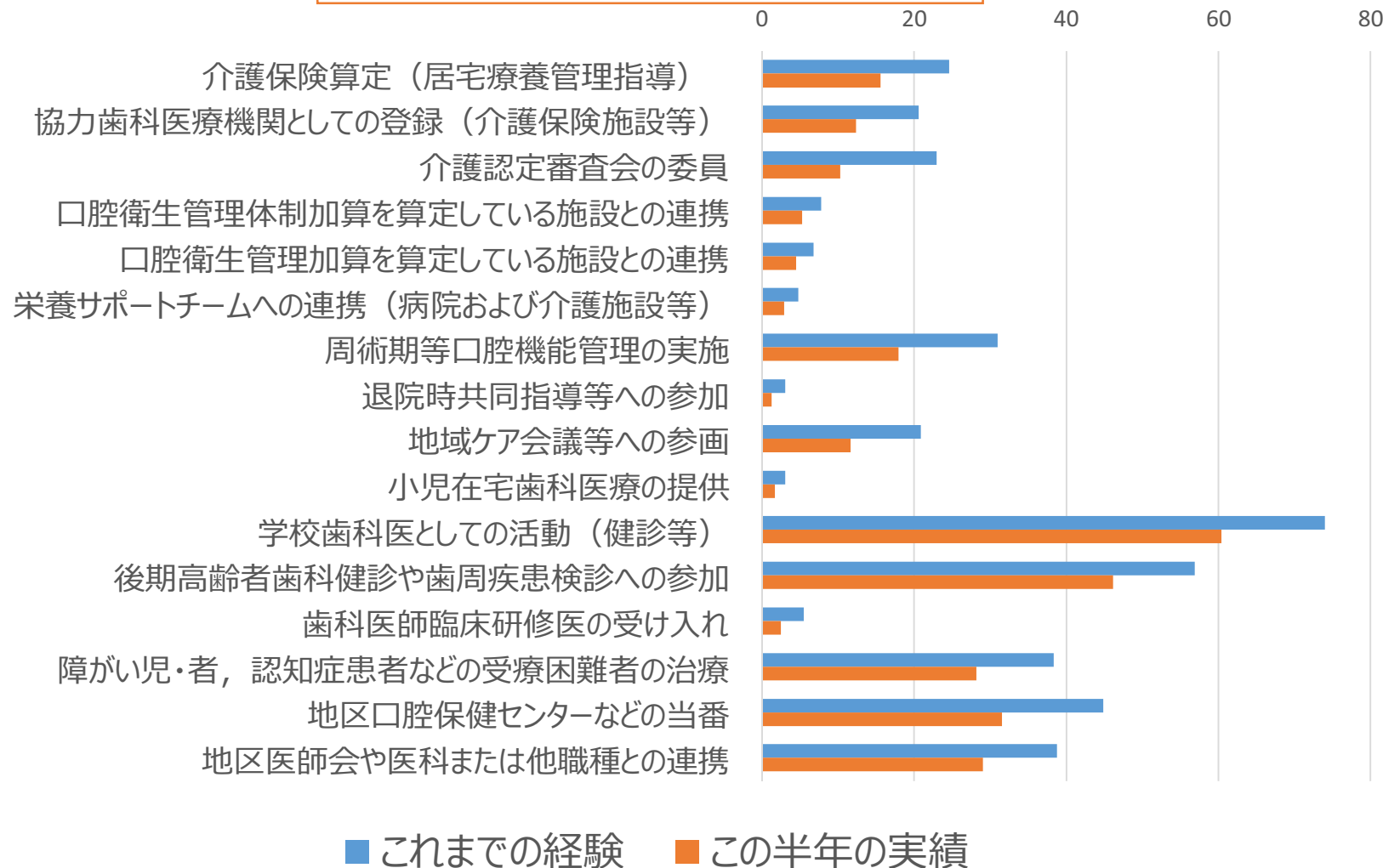
### 歯科訪問診療を実施していない理由 (複数回答)



施設基準を届け出せず、在宅歯科医療を実施している歯科診療所が多い。  
在宅を実施できない理由としてはマンパワー不足との回答が最も多い。

## これまでの経験と直近半年の実績

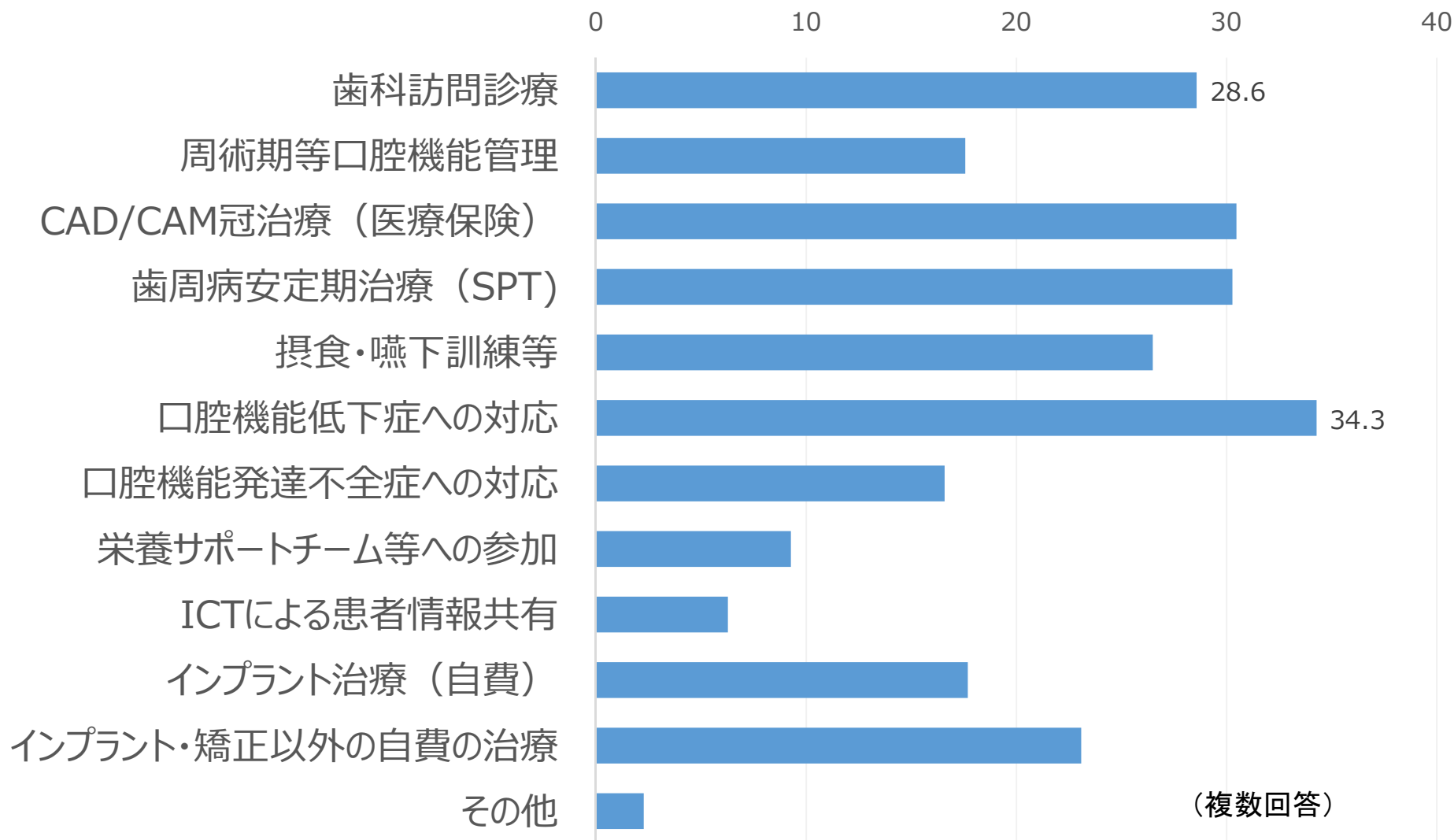
(%)



学校歯科医や健診など地域の保健事業に多く関わっている。  
障がい児者や認知症患者の受け入れも行っている。

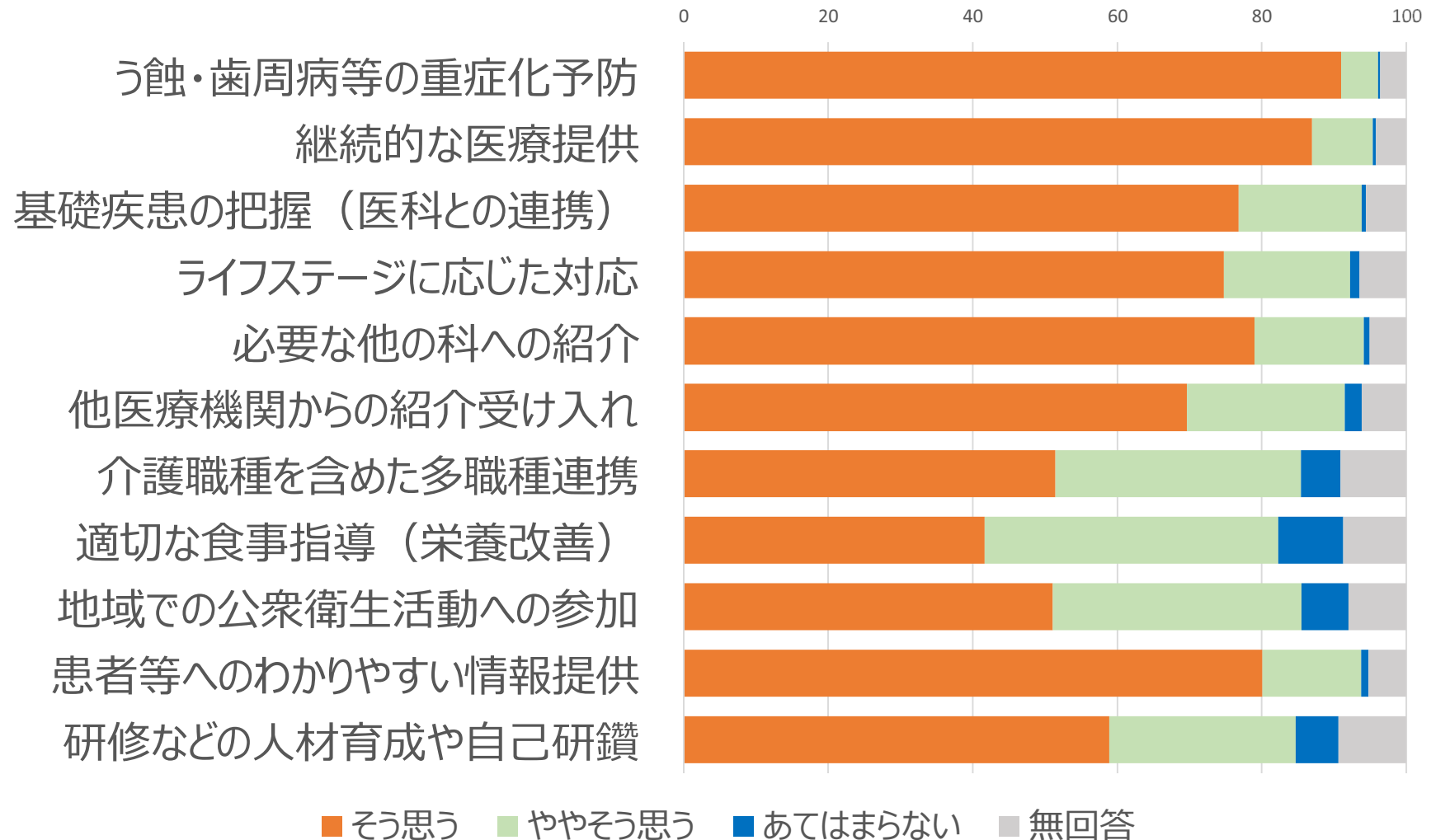
## 今後取り入れたいまたは拡大したい治療等について

(%)



今後取り入れたいまたは拡大したい治療については口腔機能低下症への対応が最も多い。

## かかりつけの歯科医師の役割としてあてはまるもの (%)



かかりつけ歯科医師の役割としてう蝕・歯周病等の重症化予防や継続的な歯科医療提供が重要と考えている。